

今までの歩み

～初代校長「藤井富士夫」(作詞者)が校歌に込めた思い～

校歌は学校の命を象徴するものです。新しく創設された本校の弥栄へと、ここに学ぶ子等の心の糧として、生涯のささえになるものと思います。開校以来考え考えぬいてまとめました。三連よりなる歌詞全体は、本校の教育指標を、学校所在地の大自然の中から歌ったものです。一連は、朝夕仰ぐ伊吹山を主題にして、お山のように強く明るく進みたいことを念願したものです。二連は西濃の母なる川、揖斐川を主題にして、水の流れそのままにゆたかに、清く生きぬきたいと願いをこめました。三連は、天ひろく拓ける濃尾の沃野に思いをはせ、みんなスクラム組んで、大いなる二十一世紀の世代に幸せをもとめて雄々しく生きて行くことを心より祈念して結びました。

この学校が本校に学ぶ子等が常に口ずさみ、障害にくじけず足おと高く進むことを祈るとともに、卒業生も、うれしい時にも、かなしいときにも思いだして、心の励みにして下さることを、全身の願いこめてお祈りします。

校歌歌詞カード ～作詞者の言葉～ より

「養護学校」から「特別支援学校」への変更はありましたが、それ以外は50年間変わることなく、多くの児童生徒によって歌い継がれてきました。

1975年の2月に
印刷された校歌の
歌詞カード

